



# NPO通信

## 「フェスタ'12～地域と共にきらめくフェスタ～」を 開催致します。

実行委員長 倉本 明

来る11月17日（土）、18日（日）の両日は、メイン会場の生涯学習プラザにて、これに先立つ11月1日（木）は国際交流センター、7日（水）は野外会場の江ノ島にて「フェスタ'12」を開催する予定です。プログラムが出来上がりましたので、詳細はこちらをご覧ください。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。

今年のフェスタの**基調講演**は「**中国と日中関係—歴史と現在、そして今後の可能性**」と題しまして、東京大学でアジア政治外交史・アジア政治論がご専門の川島真先生をお迎えしてご講演いただきます。ご承知の通り、現在、日本と中国は少しギクシャクした関係にありますが、フィールドワークを通じ中国の実態に詳しい川島先生からどんなお話が聞けるか楽しみでもあります。皆様、ご期待下さい。

さて、今年のフェスタのテーマは「**地域と共にきらめくフェスタ**」と致しました。

フェスタ自体は、受講生の皆様方の日頃の学習成果を発表しつつ、「ともに集い、学び、楽しむ」という基本の骨格は変わりませんが、少し敷居を下げて、より親しみ易く、楽しい企画を加えることに致しました。カフェも2種類用意しましたのでご利用になって下さい。今回、中原区文化協会様のご協力をいただき今までフェスタに来たことのない方々にも多数お出でいただくとともに、プラザのある今井南町を中心とする住民の方々にも新聞折込チラシを通じて企画内容を告知致します。かわさき市民アカデミーが決して孤高の存在ではなく、広く地域の皆様とともにあるという姿勢をアピールしていきたいと思えます。

今年のフェスタには上記に加え、従来と少し異なる特徴があります。それは、講師派遣型の企画が減って、受講生による自主企画、自主運営という本来あるべき姿に戻ったということです。中でも今回、ディスカッションではなく、ダイアログを中心としたカフェ付トーク企画が登場し、ゆったりオープンに語り合うことで、立場を超えてお互いの背景や想いを理解し合い、共に考えテーマを共有していくというものがいくつかあります。

また、群読という形式を持った公演もあって、ユニークな自主企画が揃いました。展示企画についても、力作がそろったようです。川崎の自然のある瞬間を巧みに切り取った写真展や、洋画と日本画が揃ったすばらしい絵画の展示、あるいは、「**環境とみどり講座15年のあゆみ**」の紹介など、アカデミーならではの充実した力作揃いの自主企画がたくさんあります。

例年行われている、歌や芸能など、エンタテインメントにつきましても中原区文化協会様の参加を得て、一層華やかなものとなり、近隣のこどもたちを対象とした「**子ども理科実験教室**」では、一部、受講生が企画、指導を行います。

今年のフェスタは、4月の実行委員会準備会を皮切りに検討を重ね、その後世話人の皆様はじめ多くの受講生の皆様の熱意とバックアップに支えられ進めて参りました。生涯学習財団からも、適切なアドバイスやご支援をいただいております。皆様には、あらためて感謝申し上げます。

それでは、**フェスタ'12**をお楽しみ下さい。

## メイン会場（401教室：定員144名）へのご案内

楽しい催しが目白押しです。お子さんやお孫さん、友人や知人をお誘いの上ご参加下さい。メイン会場を一杯にしてフェスタを盛り上げましょう。

11月17日（土） 13:00～16:00

### 「シネマ&トーク」



#### 映画『津波のあとの時間割』

震災後の6月から石巻市立門脇小学校にカメラを据えて1年、教室と地域、子どもとおとなの再生の日々を、石巻の四季とともに織り上げたドキュメンタリー映画です。

### 福島の子どもたちとともに「川崎サマースクール2012開校」報告

#### 「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会 副代表 江田 雅子

昨年の夏から始めた川崎サマースクールとプチ保養2012の開校報告です。今年は福島から36人の子どもたちと10家族の親子がやってきました。

11月18日（日）



### 基調講演

『中国と日中関係—歴史と現在、そして今後の可能性』 東京大学准教授 川島 真  
10:30～12:00

参加者には東北応援グッズ無料進呈  
南部鉄置物と風呂敷（いわき市染）：先着順  
高級シャーボ：全員

米国に次ぐ世界第二位の経済大国であり軍事大国でもある中華人民共和国。わたしたちはこのような隣国をどう捉え交流してゆくのか。この最大の課題に立ち向かう為に、アジア政治外交史・アジア政治論がご専門の川島先生が明晰なお話を展開されます。

### 群読公演『水の手紙—群読のために—』 井上 ひさし作 13:00～13:30

「水の手紙」は井上ひさしが残した群読劇です。ダイナミックな構成で水をテーマに、自然との共生を訴えた作品です。今回は文学講座受講生8名で上演します。

### 「日本の芸能を楽しむ—三味線・落語・ヴァイオリン演歌」 14:00～15:30

長唄・落語・ヴァイオリン演歌など、庶民に愛され親しまれた芸能を聞きながら、日本人の感性に触れてみましょう。

### 「竹製オカリナ・バンブリーナの音楽会」 15:30～16:30

オカリナを越える音色の手作り楽器バンブリーナによる音楽会。

フォークソングからニューミュージックまで、最後は皆で一緒に歌いましょう。



## 企画・運営委員会報告

「第4回企画・運営委員会」2012年10月29日（月） 17:30～19:15

審議事項：4件、報告事項：4件

### ○審議事項

- ① 2013年度前期「エクセレントⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「現代事情」、「短期集中講座」等日程表作成状況について
- ② 「心理学講座（仮題）」開設準備の進め方について
- ③ 「暮らしの中の科学」、2013年度以降の運営について
- ④ 2013年度講座カリキュラム等総合調整について

### ○報告事項

- ① 「20周年記念事業実行委員会」設置について
- ② NPO関係会議の公開規程について
- ③ 条例指定NPO法人化について
- ④ NPO通信への原稿依頼について

2013年度前期「エクセレントⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「現代事情」、「短期集中講座」等日程表はほぼ順調に進捗しています。また、2013年度開講講座数、開講日時、場所も最終確認されました。

## 2013年度前期講座・ワークショップ開講日時の変更

企画・運営委員会の決定を受け、一部の講座・ワークショップ開講日時が変更されます。諸般の事情で変更せざるを得ませんでした。スケジュールに組み込んでおられる受講生の皆様にはご迷惑をお掛けします。今後は曜日の変更を出来るだけ行わないように努めてゆきます。

### 開講日時変更講座・ワークショップ

（会場はいずれも生涯学習プラザ）

	10:30～12:00	13:00～14:30	15:00～17:00
月曜日	「自然（川崎学）講座」 「現代事情講座」	「いのちの科学講座」、 「国際関係講座」	「いのちの科学ワークショップ」、 「国際関係ワークショップ」
火曜日	新しい科学講座（「暮らしの中の科学」が新装されて再デビューします）		
水曜日		「政治・社会講座」	「政治・社会ワークショップ」
木曜日		「人間学講座」	「人間学ワークショップ」

# 本 の 世 界

『森林飽和—国土の変貌を考える』

太田 猛彦

NHKブックス

かわさき市民アカデミーの副学長であると共に「環境とみどり」のコーディネーターでもある太田先生が注目の本を出版されました。私たちは環境問題の報道等から日本の「みどり」が足りないと漠然と想っていますので、「森林飽和」と言われると皆さんはびっくりすると思われます。実際は戦後の70年で日本の国土は歴史上類を見ないほど「みどり」が豊富になった事実が色々の面から論じられます。浮世絵に見られる江戸時代の山々ははげ山であったとのショッキングな事実が語られます。しかし、「環境とみどり」ではこのことは既に学習済みです。原因はエネルギー革命でした。エネルギーの石油利用と輸入木材の増加で国内の「みどり」の総量は画期的に増加しました。これと平行して推進された国土改造計画が日本の自然を大きく変えたのでした。

飛砂、洪水や土砂災害の件数は画期的に減少しましたが、海岸線の侵食や深層崩壊、里山の森林化等の新しい問題が深刻化してきました。先生は山々における森林の増加が引き起こす日本の自然の変貌を統一的に把握し、その対策案を提示されようとなさっておられます。

根本的な視点は「日本はユーラシア大陸の東岸、中緯度の沈み込み帯に形成された弧状列島である」との認識にあります。ここから日本の自然と社会の特徴である「山地が急峻で、川は急流である、地質が複雑である、地震や火山活動が活発である、台風が来襲する、人口が多い」等のことが説明できます。

私たちの社会は戦前と戦後で大きく換わりました、そして今、再び大きな転換期にさしかかりました。体験的に実感する事は難しい面もありますが、実は日本の自然も大きく変貌しようとしています。戦前、戦後、そして大きく変わろうとする未来、私たちの一生は異なる三生を生きることとなります。この本を読みながら日本の自然の変貌に心を移し、これからの日本のあり方をともに考えてゆきましょう。著書の目次を記しておきます。これだけでも内容への興味が高まります。一読をお薦め致します。

## 目 次

### 第1章 海辺の林は何を語るか—津波と飛砂

東日本大震災時の津波と松を主体とした海岸林の関係が詳細に論じられています。

### 第2章 はげ山だらけの日本—「里山」の原風景

過去の日本の山々ははげ山だらけであったことが色々の証拠から明らかにされます。

### 第3章 森はどう破壊されたか—収奪の日本史

過去の日本のエネルギーと建築資材は木材でした。このため日本の森林は徹底的に利用尽くされました。

### 第4章 なぜ緑が回復したのか—悲願と忘却

戦後のエネルギー革命で日本の森林は急激に変貌しました。エネルギーの石油利用と輸入木材の増加で国内の森林が再生されました。

### 第5章 いま何が起きているのか—森林増加の副作用

飛砂、洪水や土砂災害の件数は画期的に減少しました。しかし、土砂の流出量や河川の水量減少で海岸線の侵食が加速されました。さらに山地の深層崩壊、里山の森林化等の新しい問題が深刻化してきました。

### 第6章 国土管理の新パラダイム—迫られる発想の転換

日本の地理的位置の確認から日本の「国土」の特徴を再把握し、「新しい森林の原理」が論じられています。

## 『編集後記』 木の間より洩りくる月のかげ見れば 心尽くしの秋は来にけり

空は澄み、月影さやかな季節となりました。秋も深まり、そろそろ木々も紅葉を始めました。フェスタの季節です。受講生が中心となって企画・実演する新装フェスタに皆で参加して盛り上げてゆきましょう。

編集責任者：折居 晃一、田辺 初子、高橋 富夫、原 宏、西山 拓